「特集 建設分野の魅力」第11回　神戸でフォーラム

女性の未来 現場で輝く

技術者や職人の不足が常態化している建設業界では現在、女性の力に着目し、女性が働き続けられる職場環境の整備を進め、採用を増やしつつある。建設業で女性の活躍の場をさらに広げていくためにはどうすればいいのかを探るフォーラム「建設業における女性の活躍について」がこのほど、神戸市内で開かれ、「土木技術者女性の会」企画広報局長の村上育子氏が「女性が活躍できる建設業をめざして」をテーマに基調講演。建築土木現場で働く女性5人が「建設業で女性がいきいきと働くために」をテーマに現状の課題や要望など本音を語った。（取材協力＝兵庫県建設業魅力アップ協議会）

未来につなぐ
つくるひと・まもるひと

基調講演「女性が活躍できる建設業をめざして」

「土木技術者女性の会」企画広報局長 村上　育子氏

男女が協働する時代に
少数派の声聞き意識改革を

住宅を手掛ける建築家になりたくて、大学では建築工学科を受験したが、もの珍しさで受けた土木工学科のみ合格し、この世界に足を踏み入れた。卒業後は鹿島建設に入社し、現在は国土交通省発注の京奈和自動車道紀北西道路雄ノ山高架橋工事に従事している。

「土木技術者女性の会」は、土木学会誌での女性技術者の座談会がきっかけで、1983年に約30人の仲間が集まって設立した。「女性技術者同士の励まし合い」「知識向上」「働きやすい環境づくり」などの目的を掲げて活動。全国を北海道、東日本、中部、西日本の4支部に分け、現場見学会や勉強会、セミナーなどを開催。現在の会員数は全国で300人を超える。

環境改善

建設業界の土木・測量技術者の女性の割合はわずか2・4%。「体力勝負できつそう」「男社会」といったイメージが固定化してしまっているからではないか。環境を整えるため、私が従事する現場では2015年9月、業界初の女性専用仮設トイレを設置した。トイレメーカーとともに、狭い、汚い、臭い、というイメージを覆す新たなトイレを導入。空間を広げ、洗面台やファンのほか、暖房便座や擬音装置、除菌クリーナーもつけた。現場の女性からは、トイレを我慢することになれば体調が心配だという声も聞く。ぜひとも女性がいる現場には専用トイレの設置を検討してほしい。

業界初の女性専用仮設トイレを見学する女性の会メンバーら。女性がいる現場への普及、周知を目指している

組織力向上へ

現場には技術者だけでなく職人としても女性が十分に活躍できる場がある。男性と比べて体力面では劣るが、コミュニケーション力、分析力に優れる。特に最近の職長職は書類作成業務が多く、女性でも十分に能力を発揮できるのではないか。また、建設現場に女性の技術者、職人が増えれば、雰囲気が良くなるだけでなく、組織力が上がり、生産性も向上するはずだ。

だが、制度や仕組みは充実してきたが、まだ意識の変化が追い付いていない。女性自身にも「周囲の期待に応えないといけない」「各種制度を使いたいが迷惑がかかるし、評価も下がるのでは」と考える人が多い。

また、男性の中にも「男のスタイルに合わせて働くのが当たり前」という風潮が根強く残っていることも問題だ。変わるためには、ワークライフバランスの実践を進め、多様な個性や能力を尊重した働きやすい環境を整えてほしい。そのためには少数派に合わせてみる策も有効だ。

部下（女性）の声を聞かない上司（男性）の下では、部下は不安、不満が募り、将来の展望が感じられず離職してしまうことも。反対に部下も何も言わないままでいると「このままで問題ない」と周囲に判断され、改善が進まない。相互理解を深めるためのコミュニケーションが必要だ。

将来のために

そして、女性技術者を過保護に扱わず、男性と同様に長期的なスパンで育ててほしい。本人が管理職になった時に、同世代の男性と比べて年相応の経験を積んでいないと、さまざまな面で苦労する恐れがあるからだ。

これからの建設業界では、出産、育児だけでなく親の介護や自身、家族の健康問題などで時間的制約を受ける人が、男女問わず常に入れ替わる可能性がある。労働環境を早期に見直し、整備することによって、制約を受ける人と受けない人双方が補い合いながら働く「協働」が求められる時代になる。

パネルディスカッション「建設業で女性がいきいきと働くために」

■コーディネーター　村上　育子氏

■パネリスト

大成建設 御堂筋立坑作業所 工事主任　広野　彩氏

西松建設 京都西シールド出張所工事主任　内山明日香氏

兵庫県北播磨県民局 加東土木事務所 道路第一課主査　高田　奈緒氏

柄谷工務店設計部　松田　夏実氏

平錦建設建築部　中山　花菜氏

松田氏 引いた線が実現する喜び

村上　まずは自己紹介から。

広野　父が建設会社に勤務していたため、この仕事を身近に感じていた。就職活動時は「女性がゼネコンに行くなんて」と止められた。入社以来、施工管理業務に従事している。

内山　高校時代、瀬戸大橋を見上げてスケールの大きさに魅力を感じた。地方自治体で下水道事業に携わった後、東日本大震災をきっかけに自分にできることを考え、転職した。高校3年の息子がおり、子育てしながら仕事もしてきた。

高田　小さいころから建物ができていくのを見るのが好きだった。1997年に入庁し、結婚、出産を経て小、中学生の子どもがいる。現在は耐震補強工事の工事監督をしている。

松田　入社3年目で設計を担当。パース作成のほか、コンピューター利用設計システム（CAD）で仮想の建物の中を歩くアニメなどを作ってコンペのプレゼンに参加することもある。もっと深いところを知りたいと思って仕事を続けている。

中山　専門学校で2級建築士の資格を取得し、2013年に平錦建設へ。設計をするにもまずは現場を知ることから、と考え、現場監督をしている。自分で描いた施工図が完成していく姿を見るのが楽しい。

村上　建設業界の魅力は。

広野　単品生産で同じものは二度と作れないことだ。職人と一緒に現場を作っていくプロセスも楽しい。

内山　出来上がるものが人の生活を支えていることにやりがいを感じる。

高田　地元の方と根気強く関わっていきながら、ものを作る必要性などを理解してもらい、つくり上げていくところが面白い。

松田　自分が考えた空間、引いた線が現実になることが魅力だ。

中山　建物は時代とともに進化し、できなかったことができるようになっている。いつかは宇宙につながるエレベーターも作れるかもしれない。夢のある仕事だ。

村上　建設業の仕事に携わって、女性だからこそ感じたギャップはあったか。

広野　入社3年目の時にシールド工事の現場を希望し配属されたのだが、当時の上司は「将来結婚、出産することも考え、幅の広い働き方ができるよう工務も覚えた方がいい」という考え方だったので、希望していた現場に出る時間が大幅に減り、もんもんとした。

内山　最近は女性に対する配慮が過度になっていないかと感じる。女性の活躍はうれしいが、過保護や過度な配慮は成長の妨げになる。区別はいいが差別はない業界になってほしい。

高田　公務員は毎年女性が採用されており、今はギャップを感じない。

村上　仕事と家庭の両立での苦労は。

内山氏 過度な配慮は成長の妨げ

内山　子どもを産んでも働きやすい制度は整っているが、それを取りやすい風土、環境があるかどうかが大事だ。

村上　女性ならではの課題を克服するためにどうすればいいのか。

広野　組織の中に女性が少ないと、どうしても自分が周りに合わせてしまいがち。他社の女性の話を聞いて、自社の良い点、悪い点が見えたところもあり、気持ちが楽になったことがあった。

松田　女の子だから行くな、というところほど行くようにしていた。積極的に質問をするとやる気があるとみられ、やっと男性と同様に認められるところはあった。

中山　1年目の不安な時期に、現場のとびの女性職人に相談に乗ってもらい、助けになった。その人がいなかったら辞めていたかもしれない。悩みを聞いてもらえる人がネット上にいるだけでも安心できる。

広野氏 一人一人に合わせ対応を

村上　私たち女性がさまざまな要望を出すのは、後に続く後輩のためであり、男性にはぜひ聞く耳を持ってほしい。そのためには相互のコミュニケーションが大切だ。いい方法はあるか。

広野　飲み会には付き合っている。対職人でも同じ。休憩時間には必ず話をし、奥さんとの悩みなどプライベートのことも聞いて、アドバイスしている。

松田　本社の席がフロアの中心にあるので、人が通りがけに話しかけてくれるので、ものがいいやすかった。

村上　女性活躍のために伝えておきたいことがあれば。

広野　女性の中にもキャリアをどんどん積みたいというタイプもいれば、家庭と仕事を両立して働きたいというタイプもいる。前者でも来年には後者の気持ちに変わるかもしれない。決めつけず、一人一人のタイプとその時の状態を観察して対応してほしい。

内山　きれいな職場で働き、平日も家族と過ごしたいという気持ちは誰もが思うこと。女性が活躍する働きやすい会社は、誰もが働きやすい会社であるはずだ。

高田　育児の次は親の介護の問題も出てくる。制約がある中で仕事を続けていくためにも、業界で誰もが働きやすい環境をつくってほしい。

高田氏 誰もが働きやすい環境に

村上　子育てしながら働く女性は効率よく仕事をしている。そのことを通じて無駄のある業務の見直しもできる。

松田　今後は現場に行く機会も増えるため、皆さんの話を聞けて勉強になった。

中山　今24歳だが、結婚、出産もしたい。仕事も続けていきたいし、資格も取りたい。次の世代のために目標となるような存在になり、後押ししてあげたい。

中山氏 次の世代を後押ししたい

村上　きょう皆さんからいただいた意見を参考に、前向きに労働環境の改善に取り組んでほしい。

◆

終了後、会場の参加者からは「現場で働く女性の声を聞くことができ、今後に生かしたい」「女性の活躍のための対策を考える上で非常に参考になった」との声が聞かれた。主催した兵庫県建設業協会は「建設業のイメージアップを図り、建設業への女性の就職や、女性が働き続けられる職場環境の整備が進み、建設業界での女性活躍の機運の高まりにつなげたい」と話している。